

## 第10回合同シンポジウムに参加して

片山 浩大

第10回合同シンポジウム会場参加者

### 1. はじめに

2023年5月26日に、私はテクノツールと日本リハビリテーション工学協会の合同シンポジウムに参加しました。「テクノロジーで『やりたい』を『できる』に」というタイトルのシンポジウムで、身体に障害のある人々がe-スポーツに挑戦し、社会とのつながりを持つことに焦点が当てられていました。私自身、交通事故で脊髄損傷（頸髄4番-5番完全損傷）を負い、車椅子で生活している当事者として、このテーマに非常に興味を持ちました。



図1 筆者のトレーニングの様子

### 2. 講演を聞いて

受傷する前からあまりゲームをプレイしてこなかったため、最近のゲーム事情やe-スポーツについて詳しく知りませんでした。しかし、講演の中でe-スポーツについて分かりやすく説明していただきました。特に印象的だったのは、「e-スポーツは身体に障害のある人でも、やりたいという意欲さえあれば、さま

ざまな方法で楽しむことができるスポーツです。専用のコントローラーやマウスなどの支援機器を使い、それぞれに合ったセッティングを行うことで、誰もが参加できる」という言葉でした。私は自身の身体の障害を理由に、物事を行う際には自身の身体の機能でできるかできないかを判断することが多いのですが、重要なのはできるかできないかではなく、「やりたい」という思いです。そして、その思いさえあれば、方法はいくらでもあることに気づかされました。

### 3. 実際にゲームを体験

実際に会場の体験コーナーで特殊なスイッチとジョイスティックを使ってマリオカートに挑戦してみました。受傷後は指にも障害があり、コントローラーを握ることが難しかったためテレビゲームをしたことがありませんでした。数年ぶりのゲームということで難しいのではないかと思っていたのですが、実際にやってみるとものすごく簡単に操作することができました。「やってみたことがない」ただそれだけなのに「できない」と決めつけていることが他にもたくさんあるのではないかと、いろんなことに挑戦してみるべきではないかとゲームの体験を通じて感じました。

### 4. オンラインでのつながり

また、e-スポーツはオンラインで他の人と対戦することができるため、社会とのつながりを築くことができるメリットもあります。身体に障害があると外出にサポートや準備が必要になり、どうしても外出の機会が減ってしまいます。それにより、家族以外の人や社会との交流が希薄になってしまうことがあります。その点で、e-スポーツは自宅にいながらさまざまな人とつながる機会を作ることができる素晴らしい方法だと感じました。こうしたオンライン上での人と

のつながりが社会とのつながりを築く第一歩になり、そこからリモートワークなど社会進出へつながっていくのだと感じました。

## 5. 当事者の体験談

講演の後、当事者の体験談としてお二人の話を聞くことができました。ゲームをするに至るまでのいきさつやどのようにゲームを行っているのかなど、当事者のリアルな声が聞けて非常に興味深い内容でした。そのお二人のゲームに対する熱意に非常に感銘を受けました。「これをやりたい」「こうしてみたらどうか」「こういう方法もあるのではないか」といった自身の意欲に対する行動力は本当に素晴らしいと思います。その熱意が家族や周りの人を動かしていく力になっているのだと感じました。ゲームに限らず、こういった熱意は本当に大切だと思います。私自身も身体に障害があるため、必ず物事を行う際にはサポートしてもらう必要があります。そういった時に意欲を持って、熱意を持って自分のやりたいを伝えられるのかというと、正直自信がありません。「難しかったらいいよ」「できる範囲で」と自分の可能性を狭めずに、「これがやりたい」と強く言えるその姿勢は見習うべき点だと感じました。

## 6. シンポジウムに参加してみた

このシンポジウムに参加して、私の中の可能性

や考え方が大きく広がりました。一昔前から考えると技術の進歩によって、身体に障害があってもさまざまな分野で活躍できる可能性が広がっています。特に仕事という面においてはコロナ禍によって、オンラインでのミーティングやリモートワークが定着し、身体に障害のある方々にとっては、より働きやすい／社会進出しやすい環境ができたと思います。しかし、どんなに環境や技術が洗練されてもやろうという気持ちがなければ、何も動き出す事はありません。むしろ意欲さえあれば環境や技術は後からついてくるものなのかもしれません。まずはやりたいことやってみたいという気持ちが重要だと学びました。

## 7. 会場での参加について

今回はオンラインでの参加ではなく、会場で参加させていただきました。こういったシンポジウムに参加するのは初めてで、やはりリアルでの体験や会話も大事だということを再認識しました。私自身、家にいる時間が長く、普段はインターネットなど「デジタルの世界」でのつながりがどうしても多くなってしまっています。デジタルの世界は便利で効率的ですが、それだけでは満たされることはありません。デジタルの世界で得た情報やつながりを活かしながら、実際の場に出向き、実体験を積むことが大切だということに気づかされました。